α-5xi

使用説明書

簡単に写せます

構図を
工夫してみましょう

写真の描写を
変えてみましょう

フラッシュを使って
撮影しましょう

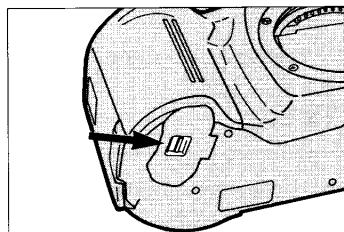
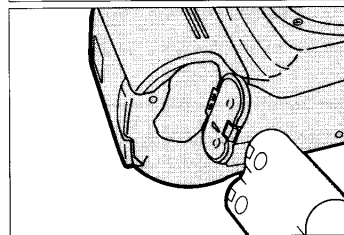
こんなことも
知っておきましょう

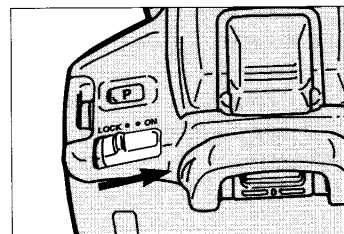
目次

このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前に必ずお読みください。併せて、レンズの使用説明書もお読みください。

文中の(アイコン)はアドバイス、(アイコン)は注意事項です。

電池の入れ方

使用する電池は6Vパックリチウム電池 2CR5 です。

1 電池室開放レバーを矢印の方向へ押して、電池室のふたを開けます。

2 電池室ふたの表示にしたがって電池を入れ、ふたを閉じます。

<電池の容量について>

メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池容量のチェックが行われ、ボディ表示部に表示します。

点灯(4秒間)
電池容量は十分です。

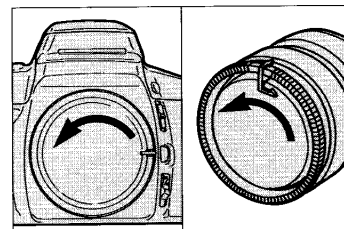
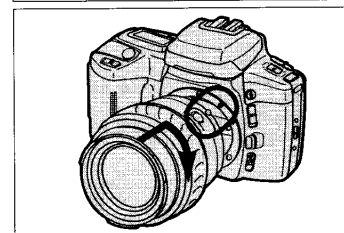
点灯(4秒間)
新しい電池を準備することをおすすめします。

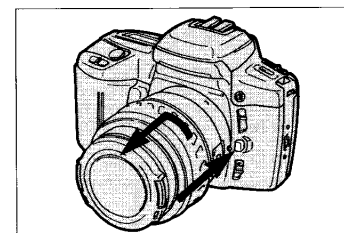
点滅
新しい電池と交換してください。

点滅・bAtt点灯
シャッターは切れません。

レンズの取り付け方／取り外し方

取り付け方

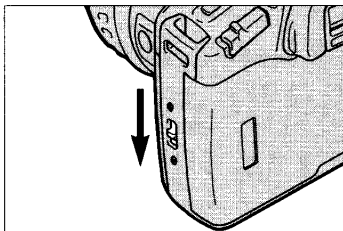
1

ボディキャップ、レンズの後ろキャップを外します。

レンズとカメラの2つの赤い点(マウント標点)を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します。

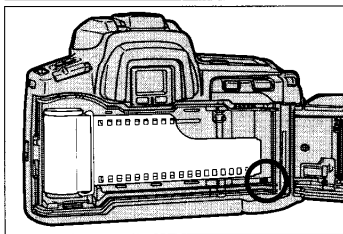
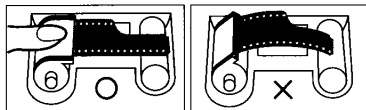
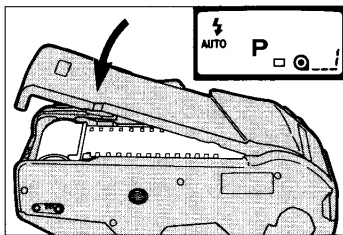
取り外し方

メインスイッチをLOCKにし、レンズ交換ボタンを押したまま、レンズを図の方向に止まるまで回し、取り外します。

フイルムの入れ方／取り出し方

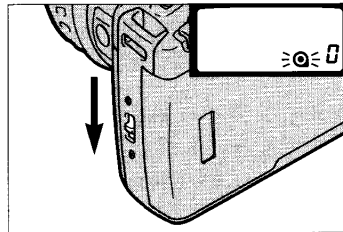
はじめてカメラをご使用になるときは、フイルムを入れる前に裏ぶたの内側にある保護シートを取り外してください。

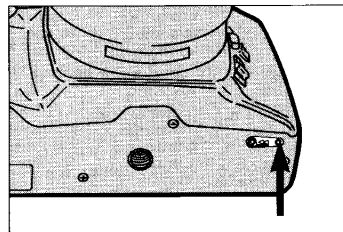
入れ方（DXコード付のフイルムをお使いください。フイルム感度は自動的に設定されます。）

1

裏ぶた開放レバーを下げて、裏ぶたを開けます。

2

フイルムを図のように入れ、フイルムがたるまないようにフイルム容器(パトローネ)を押えながら、先端を赤いマークに合わせます。

3

裏ぶたを閉じ、メインスイッチをONにします。

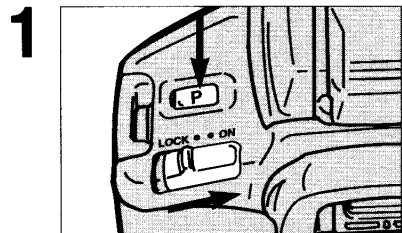
- フイルムが自動的に巻き上がり、フイルムカウンターが“1”になります。
- フイルムが正しく送られてない場合、フイルムカウンターは“0”のまま点滅します。もう一度やり直してください。

取り出し方

フイルムが終了すると自動的に巻き戻しが始まります。フイルムカウンターが“0”になり、◉が点滅したら、裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

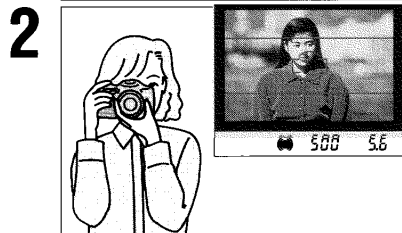
<フイルムを途中で取り出したいときは・・・>

底面の途中巻き戻しボタンを、ボールペンなど先の細いもので押します。

全自動で撮影しましょう

撮影したいものにカメラを向けて、シャッターボタンを押すだけで写真が撮れます。
26ページ以降の「α-5Xiについての知識」も併せてお読みください。

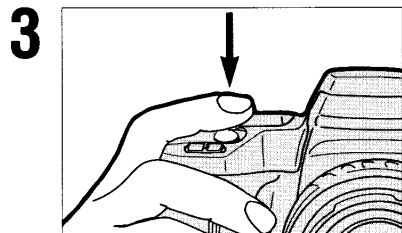
1

メインスイッチをONにし、プログラムセットボタンを押します。

- プログラムセットボタンを押すと、カメラは全自動の状態になります(29ページ参照)。

2

ピントを合わせたいものが［ ］に入るようにカメラを構えます。

- 自動的にピントが合います。
- 自動的にズーミングします(AFズームXiレンズ使用時、27ページ参照)。
- フラッシュが必要なときは自動的にフラッシュ撮影になります。

- カメラが少しでも動くと、ぶれた写真になりやすいので、カメラをしっかりと構えてください。

3

シャッターボタンを押し込みます。

被写体が中央にないときにピントを合わせるには

（フォーカスロック）

被写体が画面の中央になく、［ ］から外れた構図で撮影したいとき、以下の方法で撮影してください。これを、フォーカスロック撮影といいます。

1

ピントを合わせたいものに［ ］を合わせ、シャッターボタンを半押し*してファインダー内表示が(●)から●に変わることを確認します。

2

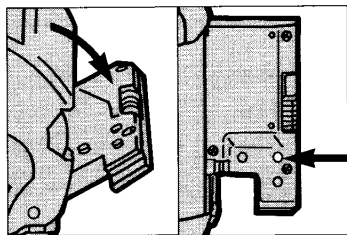
シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図にして撮影します。

- ●が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)は、フォーカスロックはできません。

＊シャッターボタンの半押し
シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、ここまで押すことを半押しと呼んでいます。

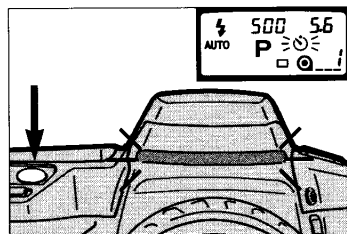
- AFズームXiレンズの場合、ズームリングを手前にひくことによってもフォーカスロックができます。 詳しくは、レンズの使用説明書をご覧ください。

セルフタイマー撮影／連続撮影

セルフタイマー撮影で自分も一緒に写ったり、連続撮影で思いがけない構図を楽しむことができます。

カードホルダー内のセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押します。

- ボタンを押すごとに、ボディ表示が以下のように切り替わります。

（1コマ撮影）（セルフタイマー撮影）（連続撮影）

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを選び、ピントを合わせシャッターボタンを押し込みます。

- ボディ表示部の⏲が点滅し、約10秒後に撮影されます。
- 撮影直前にフラッシュが下がったまま3回光ります。フラッシュ撮影の場合は、スタートと同時に下がり、撮影時に再び上がります。
- 撮影後、セルフタイマーは自動的に解除されます。

- シャッターボタンを押し込んだ後に、セルフタイマー撮影を解除したいときは、メインスイッチをLOCKにしてください。

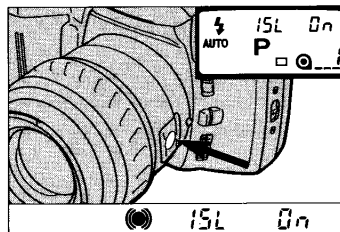
連続撮影

連続撮影を選びます。

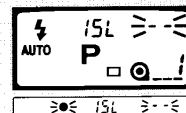
- シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。

- AFズームXiレンズ使用時、連続撮影中（シャッターボタンを押し込んでいるとき）は、パワーズームすることはできません。

大きさを決めて撮影しましょう（イメージサイズロック）

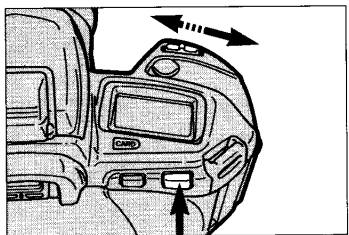
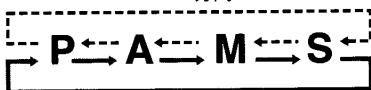
イメージサイズロックは、近づいてくる被写体がほぼ同じ大きさで写せるように自動的にズーミングする機能です。AFズームXiレンズ使用時に働きます。

被写体の大きさが撮影したい大きさになるところでレンズボタンを押し、そのまま被写体が希望の位置にきたところで撮影します。

- 近づいてくる被写体に対して、自動的に広角側へズームします。なるべく、望遠側で大きさを決めてください。
- イメージサイズロックが働いているときはファインダー内に"ISL On"が表示されます。シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の表示になります。
- レンズボタンを押している間、ズーミングを続けます。

- レンズボタンを押したときに以下のような場合はイメージサイズロックが働きません。そのときの表示は右のようになります。
  - 被写体が遠すぎて小さすぎるとき
  - レンズが広角（50mm以下）のとき
  - ピント合わせができないとき

- 連続撮影中（シャッターボタンを押し込んでいるとき）は、イメージサイズロックは働きません。シャッターボタンを押し込んだときの焦点距離で固定されます。

撮影モードを選んで描写を変えてみましょう

同じシーンでもシャッター速度や絞りを変えると写真の描写が変わります。撮影モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方を、あるいは両方を自分で決めることができます。

撮影モードの変更

ファンクションボタンを押しながら、シャッター速度設定レバーを操作します。

P（プログラムAE）モード

カメラが自動的にシャッター速度と絞り値の組み合わせを決めます。
イメージシフト（12ページ参照）ができます。

A（絞り優先AE）モード（13ページ参照）

ポートレート撮影など、絞りの効果を活かして、背景のぼけ具合いをコントロールしたいときに使います。撮影者が好みの絞り値を選ぶと、カメラが自動的にシャッター速度を決めます。

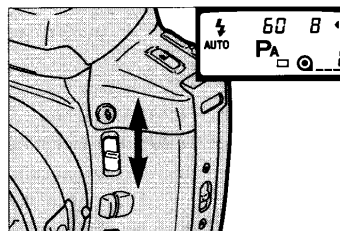
S（シャッター速度優先AE）モード（13ページ参照）

スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を活かして、被写体の動きを表現したいときに使います。撮影者が好みのシャッター速度を決めると、カメラが自動的に絞り値を決めます。

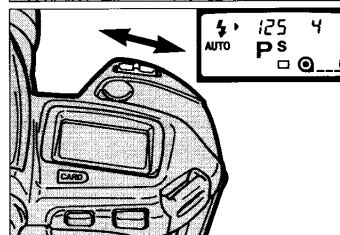
M（マニュアル）モード（14ページ参照）

撮影者がシャッター速度と絞り値の両方を決めます。フラッシュメーターなど単体の露出計で計った値で撮影することができます。

イメージシフト

Pモードのまま一時的に絞りやシャッター速度を任意に選んで撮影することができます。この機能をイメージシフトと呼んでいます。選んだ絞り値やシャッター速度は、カメラを構えてファインダーをのぞいている間は保持されています。ファインダーから目を離して、シャッター速度と絞り値の表示が消えたらもとのPモードに戻ります。

PAシフト

（自分で絞り値を選びます）

ファインダー表示を見ながら絞り値設定レバーで希望の絞り値を選びます。

PSシフト

（自分でシャッター速度を選びます）

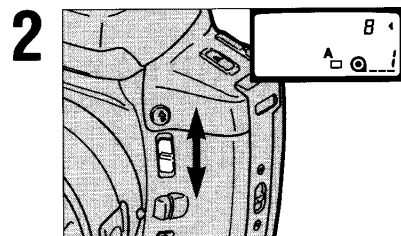
ファインダー表示を見ながらシャッター速度設定レバーで希望のシャッター速度を選びます。

- フラッシュ撮影のとき（ファインダー内に⚡が点灯しているとき）は、イメージシフトはできません。
- 被写体が明るすぎる、または暗すぎる場合は、絞り値またはシャッター速度表示が点滅し、それ以上シフトできません。その場合、点滅しなくなるように逆方向に再シフトを行ってください。

Aモード撮影

小さい絞り値(開放側)にすると、背景をぼかした美しいポートレートを、大きい絞り値(最小絞り側)にすると、奥行きのある風景など背景までピントの合った写真が撮れます。

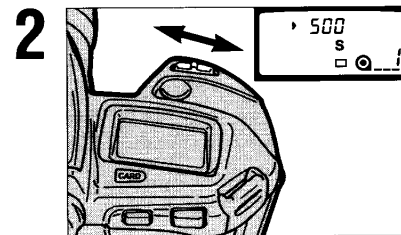
1 Aモードにします(11ページ参照)。

2

絞り値設定レバーを操作して希望の絞り値を選びます。

- 上方向に動かすと小さい絞り値に、下方向に動かすと大きい絞り値になります。

Sモード撮影

速いシャッター速度にすると、動いている被写体をシャープに写し止めることができ、遅いシャッター速度にすると、被写体の動きをぶらして流れるような動きを表現することができます。

1 Sモードにします(11ページ参照)。

シャッター速度設定レバーを操作して、希望のシャッター速度を選びます。

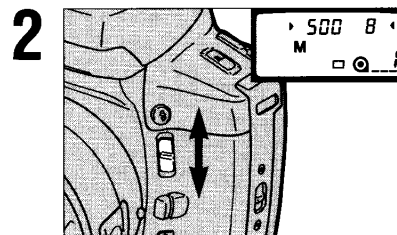
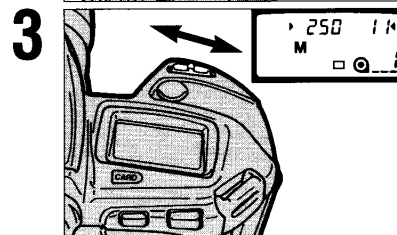
- レンズの方向に動かすと低速に、反対方向に動かすと高速になります。

Mモード撮影

1 Mモードにします(11ページ参照)。

2

絞り値設定レバーを操作して、希望の絞り値を選びます。

3

シャッター速度設定レバーを操作して、希望のシャッター速度を選びます。

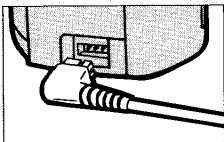
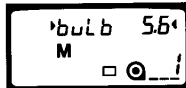
<カメラの測光値を目安にしたいときは・・・>

ファインダーで以下のように
露出をお知らせします。

露出オーバー	▶⊞
適正露出	▶ ◀
露出アンダー	⊟◀

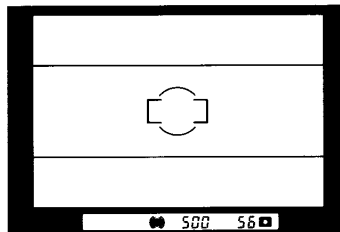
以下のようにすると適正露出になります。
シャッター速度を変更する場合は、▶または◀の方向に、絞り値を変更する場合は、▶の場合は下方向に、◀の場合は上方向にレバーを動かしてください。

長時間露光(バルブ)撮影

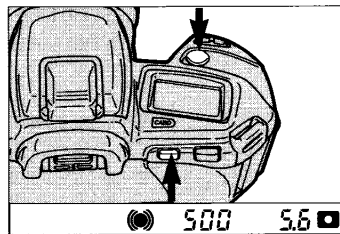
Mモードでは、シャッター速度を"buLb"にすることができます。
このとき、シャッターボタンを押し込んでいる間露光が続きます。

●三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。また、リモートレリーズターミナルにリモートコードRC−1000S/L(別売)を取り付ければ、カメラぶれを防ぐことができます。カードホルダーを開けて、リモートレリーズターミナルのふたを取り外してください。

スポット測光

通常は、画面全体を8分割ハニカムパターン測光で測っています。自分で測光するところを決めたい場合など、スポット測光で画面中央の小さい部分だけを測ることができます。

1

スポット測光フレームを測りたい被写体に重ね、スポットボタンを押します。

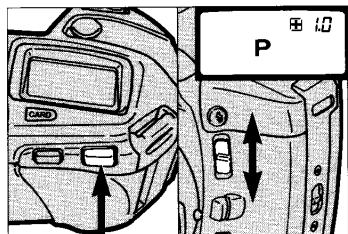
●ファインダー内に◘が点灯します。

2

スポットボタンを押したまま撮影します。

●スポットボタンを押している間、スポット測光値は固定されています。

●フラッシュ撮影のときは、スポット測光ボタンを押しながら撮影するとスローシンクロ撮影になります(21ページ参照)。

露出補正

画面全体を意識的に露出オーバーやアンダーにしたいときに使います。

ファンクションボタンを押しながら、絞り値設定レバーを操作します。

- −4から＋4まで0.5ステップごとに設定できます。
- 設定中はボディ表示部とファインダー内に、設定した露出補正値が表示されます。ボタンを離すと、⊞または⊟の表示が残り露出補正中であることをお知らせします。

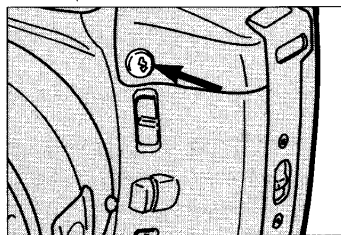
- 露出補正を解除する場合は、露出補正値を0にしてください。

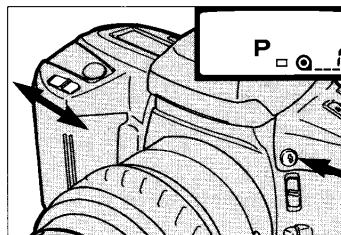
内蔵フラッシュを使って撮影しましょう

Pモードフラッシュ撮影

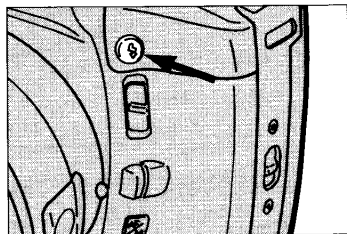
ボディ表示部に⚡AUTOがでているときは、フラッシュが必要なときは自動的に内蔵フラッシュが上がりフラッシュ撮影になります。

- フラッシュ撮影になるときは、ファインダー内に⚡が点灯します。⚡が点灯すると充電が完了しているので、撮影できます。

<強制的にフラッシュ撮影するには>

フラッシュボタンを押しながら撮影します。

<フラッシュ撮影を禁止するには>

フラッシュボタンを押しながら、シャッター速度設定レバーを操作して、ボディ表示部の⚡AUTOを消します。

- もう一度フラッシュボタンを押すと自動発光に戻ります。

A、S、Mモードフラッシュ撮影

フラッシュボタンを押してフラッシュを上げます。

- ボディ表示部にϟが、ファインダー内にはが点灯します。
- もう一度押すとフラッシュは下がり、フラッシュ撮影禁止になります。
- Sモードフラッシュ撮影の絞り値とシャッター速度の組み合わせはPモードと同じになります。自分の好みのシャッター速度を設定することはできません。
- Mモードフラッシュ撮影で設定できるシャッター速度は、1／90秒より遅い速度です。

フラッシュ撮影の距離

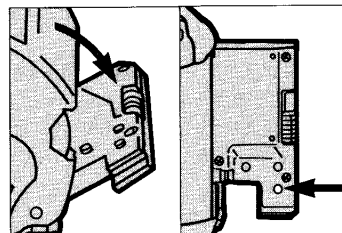
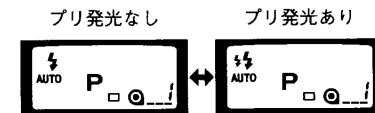
フラッシュ光の届く範囲は、レンズの焦点距離や絞り値、フイルム感度によって異なります。内蔵フラッシュでの撮影距離は以下の表を目安にしてください。フラッシュ光が十分届いた場合は、撮影後、ファインダー内でϟが点滅します。

内蔵フラッシュの撮影距離（m）

絞り値＼焦点距離	28 (mm)	80 (mm)
2.8	1.0〜5.0 (10)	1.0〜6.1 (12)
4	1.0〜3.5 (7.0)	1.0〜4.2 (8.5)
5.6	1.0〜2.5 (5.0)	1.0〜3.0 (6.0)

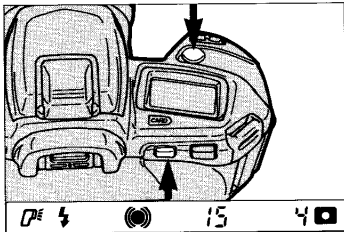
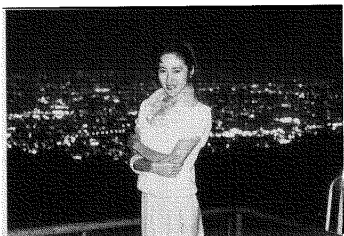
ISO100のときの値です。（　）内はISO400のときの遠側の距離です。

目が赤く写るのを軽減するために（フラッシュプリ発光）

暗いところで人物をフラッシュ撮影する場合、フラッシュ光が目の中で反射することによって、まれに目が赤く写ることがあります。内蔵フラッシュ撮影では、撮影の直前に小光量のフラッシュを発光（プリ発光）させることによって、この現象を軽減することができます。

カードホルダー内のプリ発光ボタンを押すごとにプリ発光あり、なしが切り替わります。

- 内蔵フラッシュを禁止している場合は設定できません。

- 内蔵フラッシュは自動的に下がります。
  - メインスイッチをLOCKにしたとき
  - グリップセンサーから完全に手を離したとき（約4秒後）（Pモード）
  - フラッシュが上がったまま発光せずに撮影した後（Pモード）
  - プログラムセットボタンを押したとき

夜景をバックにした人物撮影(スローシンクロ撮影)

夜景を背景にして記念撮影する場合など、通常のフラッシュ撮影では被写体はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

フラッシュ撮影のとき、スポットボタンを押しながら撮影します。

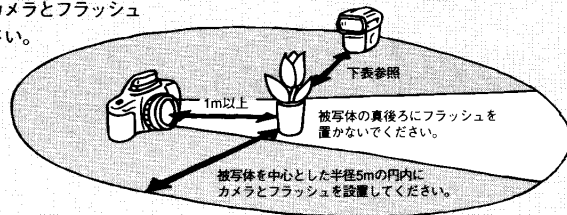
● ファインダー内に■が点灯し、シャッター速度が低速になります。

● P、A、Sモードでファインダー内にが点灯しているときに行うことができます。Mモードでは、ご自分でシャッター速度を低速にしてください。
● シャッター速度が低速になりますので、三脚の使用をおすすめします。
● Aモードで極端な逆光(人物より背景の方が明るい)ときに、この操作をすると、人物と背景の明るさのバランスが撮れたフラッシュ撮影をすることができます(日中シンクロ撮影)。

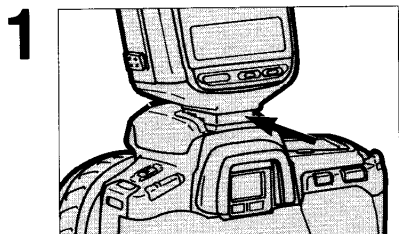
ワイヤレスフラッシュ撮影(別売のプログラムフラッシュ3500Xiが必要です)

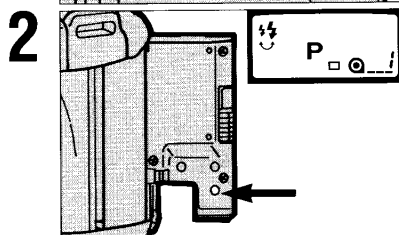
フラッシュをカメラから離して撮影すると、カメラの上に付けて、被写体の正面から照明する場合と異なり、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出したり、画面内に影が写らないようにすることができます。別売のプログラムフラッシュ3500Xiを用いると簡単にこのような撮影を行うことができます。

2人の人物に均等にフラッシュ光が当たるように3500xiを配置して撮影

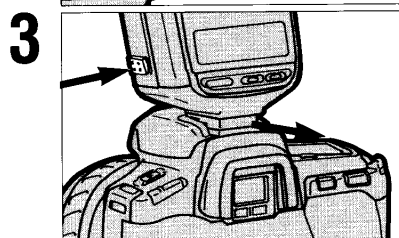
●3500xiは内蔵フラッシュの発光を信号として、発光します。信号が正しく受け取れるように以下のことに気を付けてください。
- 室内など、暗いところで行ってください。
- 下記の範囲内にカメラとフラッシュを配置してください。

3500Xiと被写体の距離(m)

絞り値 \ フイルム感度	ISO100	ISO400
2.8	1.0〜5.0	2.0〜5.0
4	0.7〜4.5	1.4〜5.0
5.6	0.5〜3.2	1.0〜5.0

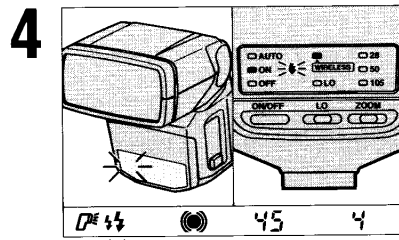
1

3500XiをONにし、カメラに取り付けます。

2

カメラのカードホルダー内のプリ発光ボタンを押して、表示部に⚡を交互点滅させます。

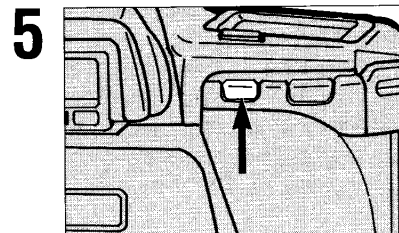
●3500Xiは背面のワイヤレス表示が点灯します。

3

3500Xiをカメラから取り外し、それぞれの位置に配置します(22ページ参照)。

●3500Xiに付属のスタンドを取り付けると、テーブルの上などに置くことができます。

4

3500XiのAF補助光または背面の⚡の点滅とファインダー内の⚡の交互点滅でフラッシュの充電を確認します。

●内蔵フラッシュは、グリップを持ってファインダーをのぞく、あるいは、シャッターボタンを半押しすると自動的に上がります。

5

カメラのスポットボタンを押し、3500Xiが発光することを確認します(テスト発光)。

●ファインダーをのぞいているときは、テスト発光はできません。

6

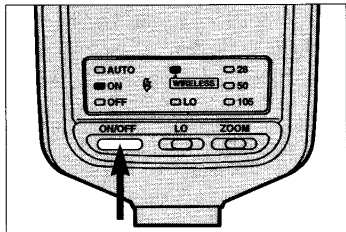
もう一度、両方のフラッシュの充電を確認し、撮影します。

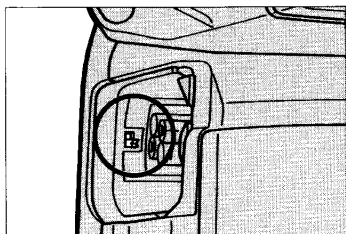
●ワイヤレスフラッシュに設定しているときは、Pモードでも常にフラッシュ撮影になります。

●カメラのフラッシュボタンを押しながら撮影すると、カメラの内蔵フラッシュも発光し、3500Xiと内蔵フラッシュの光量比を2：1にするワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

＜ワイヤレスフラッシュの解除＞

- プリ発光ボタンを押します(3500Xiを付けていないときでも解除できます)。また、メインスイッチをLOCKにすると、次にONにしたときには解除されています。
- ワイヤレスフラッシュを一時的に解除したいときはフラッシュボタンを押しながら、シャッター速度設定レバーを操作して⚡(交互点滅)を消します。もう一度フラッシュボタンを押すと、ワイヤレスフラッシュに戻ります。

＜3500Xiの設定と解除＞

3500Xiは、カメラから離した状態でもワイヤレスフラッシュの設定ができます。フラッシュを一度OFFにし、発光ON／OFFボタンをワイヤレスフラッシュランプが点灯するまで押し続けます。同じ操作を繰り返すと、ワイヤレスフラッシュランプが消えてワイヤレスフラッシュが解除されます。

＜他人のカメラでフラッシュが発光しないようにするには・・・＞

撮影会などで、近くにワイヤレスフラッシュをしている人がいると、他人のカメラで自分のフラッシュが光ってしまうことがあります。このような場合、3500Xiの電池室の中にあるチャンネルを切り替えてください。チャンネル変更した後は、必ず一度カメラに取り付けてカメラを構えるか、シャッターボタンを半押ししてください(この操作でカメラに3500Xiのチャンネルが転送されます)。

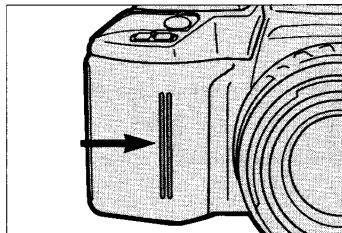
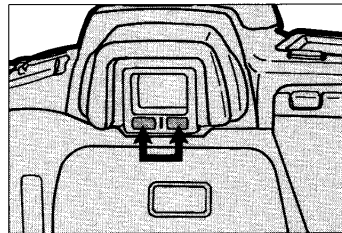
α-5Xiについての知識

このカメラの全自動撮影では、撮影者はカメラを構えて、シャッターボタンを押すだけで、カメラはいろいろなことを自動的に行っています。ここでは、自動化されているいろいろな機能を紹介します。

ゼロタイムオートシステム(構えるだけで撮影準備が完了します)

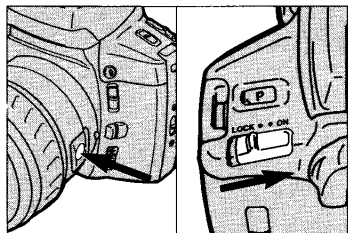
α-5Xiは、カメラを構えるとピント合わせ、露出の決定、ズーム*、フラッシュの準備などすべての撮影準備が整います。これをゼロタイムオートと呼んでいます。カメラは、グリップセンサーとファインダーの下にあるアイセンサーでカメラを構えていることを検知しています。

- 三脚に付けているときなどグリップから指が離れているときは、ゼロタイムオートは働きませんので、シャッターボタンを半押ししてください。この場合は、自動ズーミングは行われません。
- 手袋をしているときはグリップセンサーにさわっていてもゼロタイムオートは働きません。

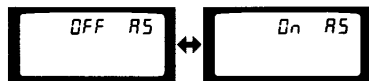
グリップセンサー

アイセンサー

＊ AFズームXiレンズ使用時

オートスタンバイズーム（自動的にズームします）

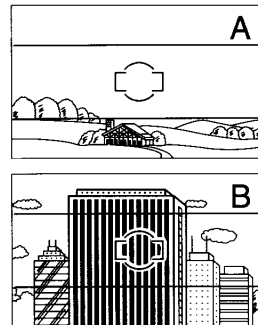
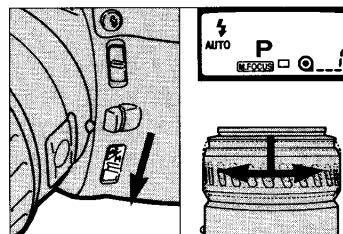
AFズームXiレンズ使用時は、カメラを構えると、被写体までの距離に合わせて自動的にズームします。この機能をオートスタンバイズームと呼んでいます。ズームする焦点距離は人物撮影に適した大きさになるように設定されています。この機能は、構えたとき一度ズームするとそれ以上は行われません。その後、パワーズームで、好みの大きさになるようにズームすることができます。なお、パワーズームすると、ファインダーから目を離してから約20秒間は、再びカメラを構えてもオートスタンバイズームは働きません。

<オートスタンバイズーム機能を禁止するには・・・>

レンズボタンを押しながらメインスイッチをLOCKからONにします。

●同じ操作をするともとに戻ります。

オートスタンバイズーム禁止　　オートスタンバイズームあり

オートフォーカス（自動的にピントが合います）

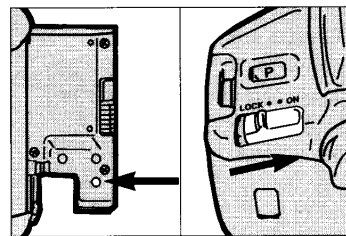
ピントが合うとファインダーに(●)が点灯します。被写体が止まっているときはシャッターボタンを半押しすると表示が●に変わり、フォーカスロック撮影ができます(8ページ参照)。被写体が動いているときは(●)のままで、被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。

オートフォーカス撮影でのピント合わせは、被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。したがって、空や壁など横方向にコントラストのない被写体(A)や太陽のように明るすぎる被写体、水面のようにきらきら輝いている被写体でのピント合わせはできません。このような場合、ファインダー内の●が点滅します。また、繰り返しパターンの連続する被写体(B)やおりの中の動物などフォーカスフレームの中に距離の異なるものが混じっている場合は、正しいピント合わせができないことがあります。このような場合は、同じ画面内にある同じ距離の被写体でフォーカスロック(8ページ参照)するか手動でピント合わせを行ってください。

<手動でピント合わせするには・・・>

カメラのフォーカスモードスイッチを押し下げて、ボディ表示部に“M.FOCUS”を表示させ、レンズのズームリングを手前に引きながら回してピントを合わせます。

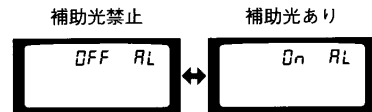
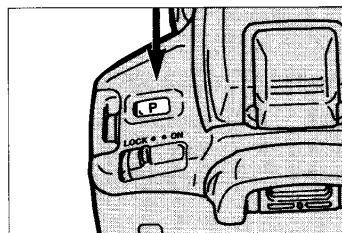
●もう一度フォーカスモードスイッチを押し下げると、オートフォーカスに戻ります。
詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

AF補助光（ピント合わせのためにフラッシュが光ります）

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、ピント合わせを助けるためのAF補助光です。この補助光が届く距離範囲は、1～5mです（当社試験条件）。専用フラッシュを付けているときは、専用フラッシュの補助光が発光します。AF補助光は、AFマクロズーム3×－1×および焦点距離300mm以上の単焦点レンズでは光りません。

<内蔵フラッシュによるAF補助光を禁止したいときは・・・>

カードホルダー内のプリ発光ボタンを押しながらメインスイッチをLOCKからONにします。

- 同じ操作をするともとに戻ります。

補助光禁止　　補助光あり

プログラムセットボタンの機能

このボタンを押すと、カメラの各機能はすべて全自動の状態になります。

ピント合わせ………オートフォーカス
撮影モード…………プログラムAEモード
フラッシュの発光……自動発光
巻き上げモード・・・・・・・1コマ撮影

- ワイヤレスフラッシュは解除されます。プリ発光、AF補助光の有無は変更されません。
- 露出補正、セルフタイマーの設定は解除されます。オートスタンバイズームの有無は変更されません。

手ぶれの警告

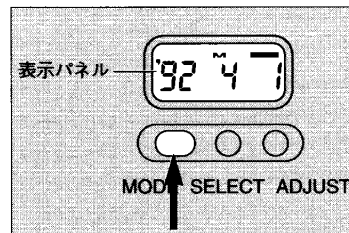
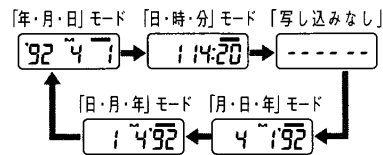
撮影モードがPまたはAモードでフラッシュ撮影を禁止しているとき、被写体が暗すぎてシャッター速度が遅くなり、カメラがぶれてしまう恐れがある場合には、ファインダー内でが点滅します。
このような場合は、三脚を用いるなどカメラがぶれないように気を付けてください。

露出の警告

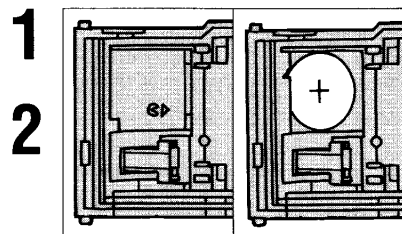
被写体が明るすぎたり暗すぎて、カメラの測光できる範囲を越えていたり、制御できるシャッター速度や絞りの範囲を越えている場合に、以下のように表示してお知らせします。そのまま撮影すると、適正露出が得られませんので、点滅しないように設定を変えてください。

モード	表示部	原　因	対応方法
P A S M	▶◀ 表示が点滅 （ファインダー内のみ） ▶ ◀	カメラの測光できる範囲を越えています。	被写体が明るすぎる場合は、NDフィルターを用いてください。 暗すぎる場合は、フラッシュ撮影をしてください。
P	シャッター速度と絞り値の表示が点滅 2000　22	カメラの制御できるシャッター速度と絞り値の範囲を越えています。	
A PA S PS	シャッター速度（PA, A）または絞り値（PS, S）表示が点滅 2000　4 2000　8	制御できるシャッター速度（PA, A）または絞り値（PS, S）の範囲を越えています。	絞り値（PA, A）またはシャッター速度（PS, S）を変更してください。

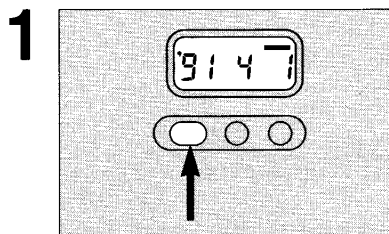
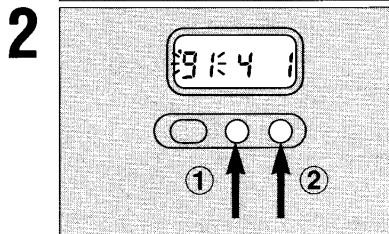
日付、時間を写し込むには

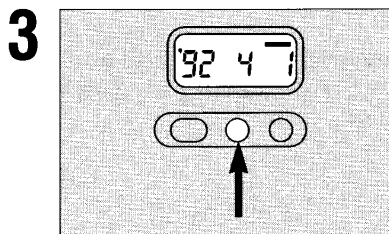
撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラは2019年までの日付が記憶されています。

モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

●写し込み位置に明るい色(空や白い壁)があると、写し込み文字が読みにくくなることがあります。

写し込み用電池の交換

写し込んだ文字が薄かったり、データ表示パネル全体が点滅している場合は、電池を交換してください。CR2025 1個を使用します。

1 電池室のふたを▶の方向に押し、手前に引いて開けます。

2 電池の＋側を上にして、電池室に入れます。ふたは、まず、右側を差し込んでから、左側を押して閉めます。

日付、時間の修正

1 モードボタンを押して、修正したい表示を選びます。

2 セレクトボタンを押して、修正したい数字を点滅させ、アジャストボタンを押して、正しい数値にします。

- ●セレクトボタンを押すたびに、年→月→日または、日→時→分→：が点滅します。
- ●表示部の"—"が消えて、設定中であることをお知らせします。
- ●時間を時報に合わせる場合は、"："を選んで、時報に合わせてアジャストボタンを押してください。

3 2の操作を繰り返し、点滅が終わり、"—"が点灯するまで、セレクトボタンを押します。

アクセサリーについて

α-5Xiでは、αシステムのいろいろなアクセサリーを使って撮影を楽しむことができます。

レンズ

すべてのαレンズが使用できます。それ以外のレンズ(MDレンズやMCレンズなど)はご使用になれません。

- AFマクロズーム3×-1×を使用する場合、1×の位置で取り付け、取り外しはできません。1×で撮影する場合は、別のズーム位置で取り付け、取り外ししてください。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは撮影できないような領域でも、より大光量の専用フラッシュを用いれば、フラッシュ撮影することができます。すべてのXi、iシリーズのフラッシュがそのままご使用になれます。

- AFシリーズのフラッシュをお使いになる場合は、別売のフラッシュシューアダプター FS-1100を使ってカメラに取り付けてください。この場合、AF補助光は発光しません。また、Pモードでもフラッシュの電源がONのときは、必ず発光します。
- AFシリーズ以前のフラッシュ(Xシリーズなど)は使用できません。

インテリジェントカード

α-5Xiでは、すべてのフォトテクニックカード(青色のカード)と一部のスペックアップカード(赤色のカード)が使えます。簡単にプロのノウハウによる撮影や新しい機能を楽しむことができます。

<使用できるカード>

フォトテクニックカード		スペックアップカード
旅カード *1	子供カード *2	多重露光カード *3
スポーツカード	ポートレートカード	オートブラケットカード*4
クローズアップカード	記念撮影カード	フラッシュブラケットカード*5

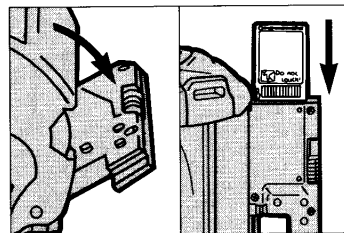
*1 被写体のブレは検出していないので、車窓から撮影しても、シャッター速度は早くなりません。

*2
- 1コマ/連続撮影ともシャッターボタンを半押しするとAPZはロックされます。
- パワーズームするとファインダーから目を離してシャッター速度と絞り値の表示が消えるまで、APZは働きません。
- 設定したAPZのプログラム番号は約4秒間表示されます。

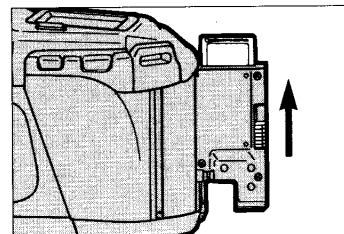
*3 Mモードで絞り値ずらしによるフェードイン/アウト撮影をすることはできません。また多重露光撮影の途中で電池を交換すると、多重露光はキャンセルされフイルムは巻き上げられます。

*4 Mモードで絞り値ずらしによるブラケット撮影はできません。

*5 次回のブラケット枚数と露出補正量は、シャッターボタンから指を離し、さらにカメラを構えるのをやめたときに表示されます。

<カードの入れ方>

カードホルダーを開け、信号接点を手前にしてカードを入れます。

- カードを入れたままでも、カードキーを押して CARD を消すとカード機能は働きません。もう一度押すとカード機能に戻ります。
- カードの設定には、カードアジャストボタンとシャッター速度設定レバーを使います。

<カードの取り出し方>

カードイジェクトレバーを押し上げてカードを取り出します。

取り扱い上の注意

内蔵フラッシュ撮影の注意

●焦点距離28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺が暗くなることがあります。

●内蔵フラッシュで撮影する場合には、フラッシュ光がレンズでさえぎられて写真の下部に影ができることがあります。以下のことに気を付けて撮影してください。
 • 1m以上離れて撮影してください。
 • レンズフードは取り外してください。

●下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
ハイスピードアポテレ 300mm F2.8
AFアポテレ 300mm F2.8
ハイスピードアポテレ 600mm F2.8
AFアポテレ 600mm F2.8

●下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影をするときは、撮影距離によっては、フラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には、専用フラッシュの使用をおすすめします。詳しくはサービスステーションにお問い合わせください。
AFズーム28−85 F3.5−4.5
AFズーム28−135 F4−4.5

電池についての注意

●**電池は火の中に入れたり、ショート、分解、充電は絶対しないでください。破裂、発火の恐れがあります。**

●**コイン型電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。**

●撮影可能本数(45ページ参照)はカメラの使い方、使用温度によって変わります。表記の値より少なくなることもありますので、海外旅行や寒いところでカメラをご使用になる場合は、予備の電池を用意されることをおすすめします。

●リチウム電池は低温下の特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池特性が低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラや予備の電池を保温しながら撮影してください。なお、低温のため性能が低下した電池でも常温に戻せば回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は−20〜50℃です。ただし、日付や時間を写し込む場合、0℃以下ではきれいに写し込めないことがあります。

●カメラの表示は液晶を用いているため、低温下では反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で黒くなってしまうことがあります。このような場合も常温に戻せば、正しく機能します。

●カメラに急激な温度変化を与えると、内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の空気を出して密閉します。そのまま、室内の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他の注意

- カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。とくに、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。
- このカメラは防水構造ではありません。万一､水にぬれたときは乾いた布で水をふきとり、すみやかに当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。
- 空港の手荷物検査を受けるとき、カメラの中にフイルムが入っているとX線で感光してしまうことがあります。検査官にフイルムが入ったカメラであることを告げて、X線の照射を避けてください。
- カメラに異常が生じているとき、ボディ表示部に"HELP"と表示されたり、まったくカメラが動かなくなってしまうことがあります。このような場合は、電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して"HELP"が出る場合はお近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。
- このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計製造管理されているレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。当社製品以外の付属品をお使いになる場合、いかなる事象が生じるかは予想いたしかねます。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり､不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

手入れの仕方

- カメラボディの表面は、柔らかいきれいな布でふくか、市販のブロアブラシでほこりを吹き飛ばしてください。特に海辺で使った後は、真水を少量浸した布で塩分をふきとり、乾いた布でよくふいて乾かしてください。
- レンズやフイルム室内を清掃するときは、ブロアでほこりを除き、柔らかいきれいな布で軽くふきとってください。その際、シャッター幕や接点に傷をつけないように気を付けてください。エアボンベタイプのブロワのご使用はおすすめできません。汚れがひどい場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。
- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。

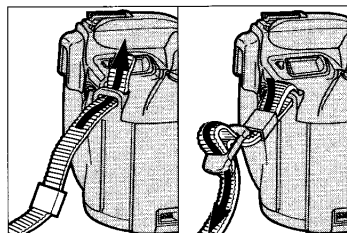
保管の仕方

- カメラケースを外し、風通しの良いところに置いてください。湿気の多い時期には、ポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
- 長期間使用しない場合は、電池を抜いてください。
- 長期間使用しないと、カビや故障の原因になってしまうことがありますので、ときどきシャッターをきるようにしてください。また、ご使用前には、整備点検されることをおすすめします。
- 防虫剤の入ったタンスなどには入れないでください。
- 直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。

アフターサービスについて

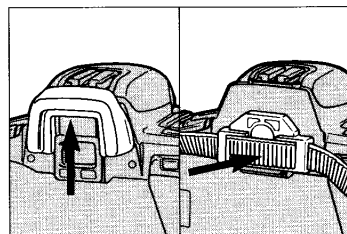
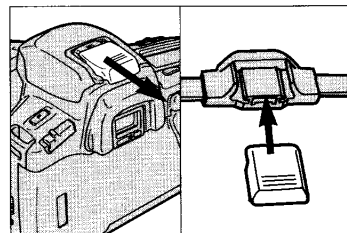
- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、添付の「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますのでご覧ください。

ネックストラップの取り付け方／アイピースキャップの取り付け方

ネットストラップの取り付け方

図のように取り付けます。

● 反対側も同様に取り付けます。

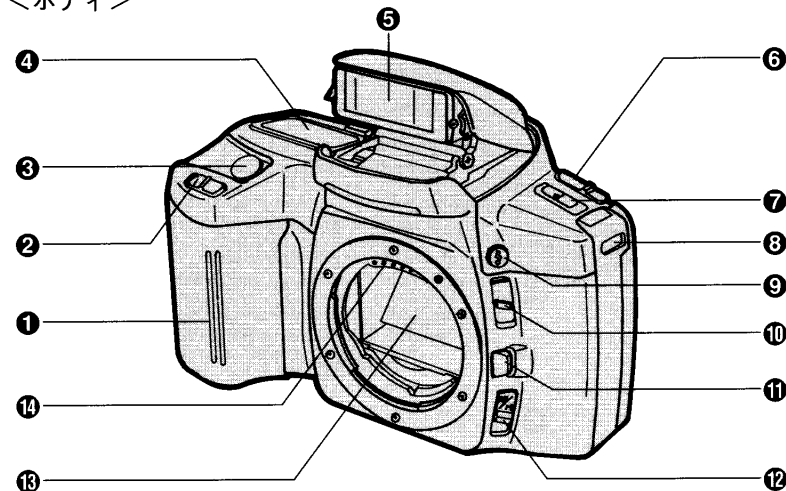
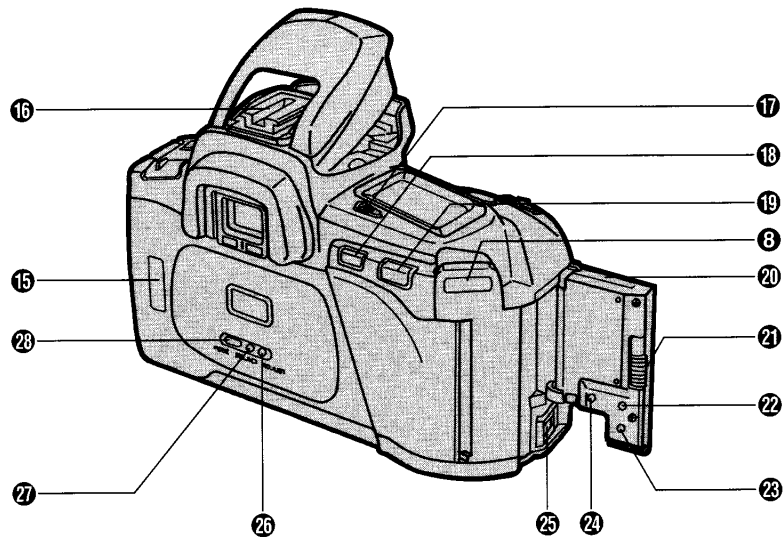
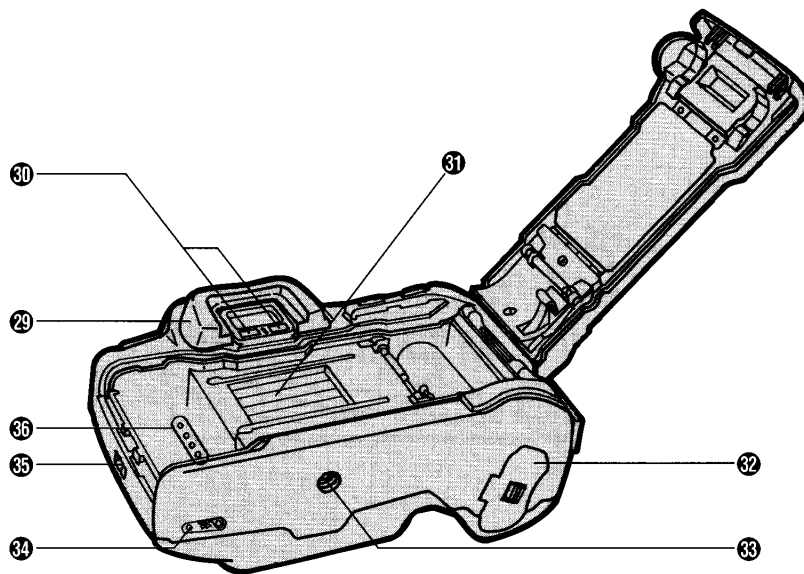
アイピースキャップの取り付け方

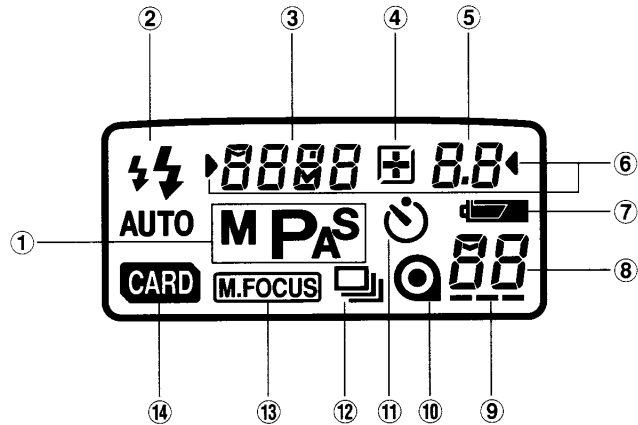
バルブ撮影など、ファインダーから目を離して撮影するときに使います。

アイピースカップを取り外し、ネックストラップに付いているアイピースキャップを上から差し込みます。

● アクセサリーシューキャップは、アイピースキャップに取り付けることができます。

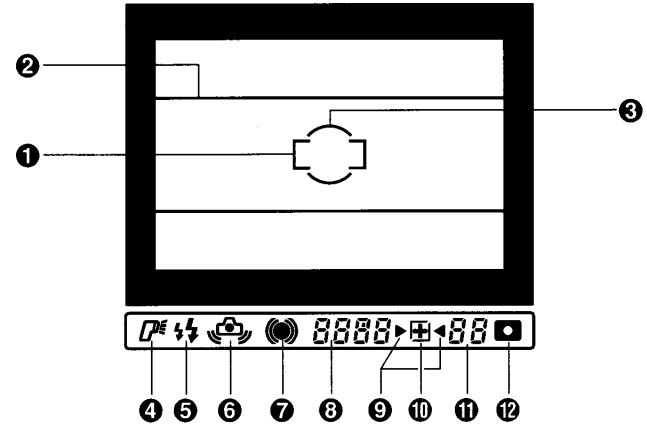
各部の名称

(　)内は参照ページの番号です。

＊印の付いたところは、触らないように気を付けてください。

<ボディ>

❶グリップセンサー(26)
❷シャッター速度設定レバー(11 ,12, 13, 14, 18, 25)
❸シャッターボタン(7, 8, 9, 10, 26, 28, 29)
❹ボディ表示部(3, 5, 6, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17, 18, 19, 20, 23, 25, 27, 28, 29, 30, 34)
❺内蔵フラッシュ(9, 18, 19, 20, 22, 24, 29, 35)
❻メインスイッチ(3, 4, 5, 7, 9, 25, 27, 29)
❼プログラムセットボタン(7, 29)
❽ストラップ取り付け部(39)
❾フラッシュボタン(18, 19, 24, 25)
❿絞り値設定レバー(12, 13, 14, 17)
⓫レンズ交換ボタン(4)
⓬フォーカスモードスイッチ(28)
⓭ミラー*
⓮AFレンズ信号接点*

⑮フイルム確認窓(フイルムが入っているかどうかを確認できます)(5)
⑯オートロックアクセサリーシュー(39)
⑰カードキー(34)
⑱スポットボタン(16, 21, 24)
⑲ファンクションボタン(11, 17)
⑳カードホルダー(9, 15, 20, 23, 29, 34)
㉑カードイジェクトレバー(34)
㉒セルフタイマー／巻き上げモードボタン(9)
㉓プリ発光ボタン(20, 23, 29)
㉔カードアジャストボタン(34)
㉕リモートレリーズターミナル(15)
㉖アジャストボタン(32)
㉗セレクトボタン(32)
㉘モードボタン(31, 32)

㉙アイピースカップ(ファインダーの上から差し込んで取り付けます)(39)
㉚アイセンサー*(26)
㉛シャッター幕*
㉜電池室(3)
㉝三脚ねじ穴(三脚を取り付けます)
㉞途中巻き戻しボタン(6)
㉟裏ぶた開放レバー(5, 6)
㊱DX接点*(フイルムのDXコードを読み取ります)

＜ボディ表示部＞

①撮影モード(11, 12, 13, 14, 15)
②フラッシュモード表示(AUTOはPモードの時のみ)(18, 19, 20, 23, 25)
　プリ発光あり
　プリ発光なし
　ワイヤレスフラッシュ(交互点滅)
③シャッター速度(12, 13, 14, 15, 21, 30)
④露出補正表示(17)
⑤絞り値／露出補正値(12, 13, 14, 17, 30)
⑥セットマーク(12, 13, 14, 15)
⑦電池容量表示(3)
⑧フイルムカウンター(5, 6)
⑨フイルムマーク(5)
⑩パトローネマーク(5, 6)
⑪セルフタイマーマーク(9)
⑫1コマ／連続撮影表示(9)
　1コマ撮影
　連続撮影
⑬マニュアルフォーカスマーク(28)
⑭カードマーク(34)

＜ファインダー表示部＞

❶フォーカスフレーム(7, 8, 28)
❷パノラマフレーム(別売のパノラマアダプターを使ってパノラマ撮影するときに使います)
❸スポット測光フレーム(16)
❹フラッシュ撮影マーク(18, 19, 21)
❺フラッシュ充電完了(点灯)／調光確認(点滅)表示(18, 19, 24)
　プリ発光あり
　プリ発光なし
　ワイヤレスフラッシュ(交互点滅)
❻手ぶれ警告表示(30)
❼フォーカス表示(8, 28)
❽シャッター速度表示(12, 13, 14, 15, 21, 30)
❾露出警告表示(14, 30)
❿露出補正表示(14, 17)
⓫絞り値／露出補正値表示(12, 13, 14, 17, 30)
⓬スポット測光／スローシンクロマーク(16, 21)

主な性能

●AF検出範囲	EV－1～18(ISO100)
●測光範囲	EV0～20(ISO100)(スポット測光時はEV3～20)
●シャッター速度	1/2000～30秒、バルブ(新品電池使用で約6時間) フラッシュ同調最高速度：1/90秒(ワイヤレスフラッシュ時は1/45秒)
●内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：14(28mm)～17(80mm) 充電時間：約2.5秒
●ファインダー視野率	縦92%×横94%
●ファインダー倍率	0.82倍(50mm標準レンズ・∞位置)
●ファインダー視度	－1ディオプトリー
●フイルム感度設定	ISO 25-5000 自動設定 1/3ステップ(DXコードのないフイルムはISO100)
●撮影可能本数	内蔵フラッシュを使用しないとき　：約55本 内蔵フラッシュを使用するとき(使用率50%)：約20本 (常温20℃、24枚撮りフイルム、新品電池使用)
●大きさ・重さ	152.5(幅)×99(高さ)×68.5(奥行き)mm 540g(電池別・クォーツデート用電池含む)

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は都合により予告なく変更することがあります。

MEMO